



「過激派」1968/2008 ©Kazuo Kitai, Courtesy of Yumiko Chiba Associates

北井一夫 過激派の時代

会期：2021年9月7日（火） - 9月28日（火）

会場：Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 4-32-6 パークグレース新宿#206

営業時間:12:00-18:00 定休日:日、月、祝日

*オープニングレセプションは開催いたしません。

【ご来廊時のご協力につきまして】

- *発熱、頭痛、咳、呼吸困難、倦怠感、嗅覚味覚異常など体調のすぐれないお客様はご来廊をお控えいただくようお願い致します。
- *マスクのご着用をお願い致します。またご来廊時には入口にて手指のアルコール消毒と、非接触型体温計による検温にご協力いただくようお願いしております。
- *万が一関係者などから新型コロナウイルス感染症の発症があった場合、連絡を差し上げられるよう、ご連絡先の記入をお願い致します。
- *大人数でのご来廊はなるべくお控えください。
- *混雑が発生した場合は、入場制限をすることがございますのでご了承ください。

ギャラリーでの換気のため、常時ドアと窓を開放しております。スタッフは毎日必ず検温を含む健康チェックを行い、手洗い、消毒液による殺菌をこまめに行なっております。予防対策として、マスクを着用し、ご対応させていただく場合がございます。

今後も会期等が変更になる可能性がございます。弊廊ウェブサイト、twitterを随時更新してまいりますので、ご確認の上ご来廊いただけましたら幸いです。

2021年9月7日(火)よりYumiko Chiba Associates viewing room shinjukuでは、北井一夫個展「過激派の時代」を開催致します。

「1964年から68年の5年間、私は全学連と全共闘など過激派と呼ばれた学生たちの写真を、その中の一人として撮っていた」（著者、本書より）。

このたび、ユミコチバアソシエイツでは、昨年平凡社より出版された北井一夫の写真集、「過激派の時代」（札幌宮の森美術館発行）の重版を記念して、「過激派の時代」展を開催いたします。



本書は、北井が写真家として活動を始めた最初のシリーズである一連の社会運動の写真を全て網羅した初めての写真集となり、1964年にアメリカ原子力潜水艦横須賀寄港に反対した学生たちの闘争を撮影した「抵抗」を始め、1966年に社会の底辺で働く沖仲士を撮った「神戸港湾労働者」、1967年10月8日に全学連と機動隊が衝突した羽田闘争を撮った「10・8羽田闘争」、1968年に大学民主化を要求して日大全共闘がストライキを起し、バリケード封鎖された校内で学生たちと4ヶ月寝泊まりして撮影した記念碑的写真「バリケード」などから、作家が自ら選抜した写真が収録されています。

1960年代、北井はこれらの運動を内側から写真を撮り続けました。その写真からは、闘争に集まった学生たちの激動の時代に対する切迫感と時代を生き抜く真剣さが伝わってきます。

本展では、一連の運動を含む「抵抗」、「過激派」、「バリケード」のシリーズから、63点を展示いたします。この機会に、ぜひご高覧ください。

【写真集】

「過激派の時代」

1964-68年に過激派の学生運動を撮り続けた写真を北井自らがセレクトした集大成的な写真集。高精度デジタルリマスター版。

当時、警察の追及を逃れて写真のネガフィルムとベタ焼きを隠し続け、72年まで半年ごとに住居を変えながら、B5判のスケッチブックに貼り付けたベタ焼きを残した。2018年に全共闘50周年を迎え、北井は汚れたスケッチブックを取り出し、全ページをスキャナーで複写して、デジタル印刷で鮮明に蘇らせた。

発行：札幌宮の森美術館

発売：平凡社

価格：3,520円（税込）

出版年月：2020年10月

仕様：A5版、224ページ、英文併記

「COLOR いつか見た風景」

1970年代の高度経済成長期の一方で、失われようとしている農村の営みをとらえたカラー版「いつか見た風景」をはじめ、これまで未発表だった「フランス放浪」を含むカラー作品68点を掲載。

発行：PCT（ピクト）

価格：3,850円（税込）

出版年月：2021年8月

仕様：235×235mm、88ページ、カラー、ハードカバー

千の葉の芸術祭 CHIBA FOTO

北井 一夫「写真集の裏側」展

会期：2021年8月21日(土) - 9月12日(日)

休館日：毎月第1月曜日（祝日の場合は翌日）

開館時間：10:00 - 18:00（金・土曜日は20:00まで、入場受付は閉館の30分前）

会場：千葉市美術館 11階 講堂



〒260-0013 千葉市中央区中央 3-10-8

TEL 043-221-2311

入場料：無料

<https://sennoha-art-fes.jp/chibafoto/>

「TOKYO: ART & PHOTOGRAPHY」

会期：2021年7月29日（木） - 2022年1月3日（月）

休館日：無休

開館時間：10:00 - 17:00

会場：Ashmolean Museum Oxford（オックスフォード、イギリス）

入場料：無料（完全予約制）

<https://www.ashmolean.org/tokyo#/>

■アーティストプロフィール

北井 一夫

1944 中国・旧満州鞍山市に生まれる

1963-65 日本大学芸術学部写真科入学・中退

<主な個展>

- 2021 「写真歴史博物館 企画写真展 写真家がカメラを持って旅に出た 北井一夫『村へ、そして村へ』」
フジフィルム スクエア 写真歴史博物館（東京）
「流れ雲旅」G&S 根雨（大阪）
- 2020 「写真集『道』出版記念 北井一夫写真展」ビリケンギャラリー（東京）
- 2018 「フナバシストーリー」Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku（東京）
「プロパガンダ —神戸港沖仲仕—」BOOKS f3（新潟）
「フナバシストーリー」船橋市西図書館 二階ギャラリー（千葉）
- 2016 禪フォトギャラリー（東京）
- 2015 MIYAKO YOSHINAGA（ニューヨーク、アメリカ）
- 2014 「To the Villages - Kitai Kazuo's Classic Photography」Aki Gallery（台北、台湾）
- 2012 「神戸港湾労働者」ギャラリー冬青（東京）
「いつか見た風景」東京都写真美術館（東京）
「ジョン・ゴセージュと2人展／バリケード」Harpers's Books Gallery（ニューヨーク、アメリカ）
「Walking with Leica 3」ギャラリー冬青（東京）
- 2011 「湯治場」禪フォトギャラリー（東京）
「西班牙の夜」ギャラリー冬青（東京）
- 2010 「中国 1973」禪フォトギャラリー（東京）
「Walking with Leica 2」ギャラリー冬青（東京）
- 2009 「Walking with Leica 1」ギャラリー冬青（東京）
- 2008 「ドイツ表現派 1920年代の旅」ギャラリー冬青（東京）
- 2006 「80' フナバシストーリー」ギャラリー冬青（東京）
- 2004 「1990年代 北京」ギャラリー冬青（東京）



- 「1990年代 北京」イルテンポ（東京）
2002 「北京」イルテンポ（東京）
2000 「北京」イルテンポ（東京）
1999 「湯治場」ツァイト・フォト・サロン（東京）
「三里塚」イルテンポ（東京）
1997 「北京」イルテンポ（東京）
1996 「鳥虫戯画」イルテンポ（東京）
1994 「おてんき」イルテンポ（東京）
1992 「新鳥獣戯画」イルテンポ（東京）
1990 「いつか見た風景」イルテンポ（東京）
1987 「フナバシストーリー」船橋市役所（千葉）
1984 「一九六〇年代バリケード」ピクチャーフォトスペース（大阪）
1978 「村へ」ツァイト・フォト・サロン（東京）
1976 「村へ」ミノルタフォトスペース（東京）

<主なグループ展>

- 2021 「北井一夫／柳沢信」Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku（東京）
「PROVOKE - Opposing Centrism」関渡美術館（台北、台湾）
「所蔵作品展『MOMAT コレクション』」東京国立近代美術館（東京）
2018-19 「建築×写真 ここのみ在る光」東京都写真美術館（東京）
2018 「平成30年度第2回所蔵作品展『MOMAT コレクション』」東京国立近代美術館（東京）
「The Origins of Japanese Contemporary - Film grain as words」古隠写真美術館（釜山、韓国）
2016 「PROVOKE: Between Protest and Performance - Photography in Japan 1960-1975」
シカゴ美術館（シカゴ、アメリカ）、ル・バル（パリ、フランス）、ヴィンタートゥール写真美術館
（チューリッヒ、スイス）、アルベルティーナ美術館（ウィーン、オーストラリア）
2015 「For A New World To Come: Experiments in Japanese Art and Photography, 1968-1979」
ヒューストン美術館（ヒューストン、アメリカ）、グレイ・アート・ギャラリー（ニューヨーク、ア
メリカ）、ニューヨーク大学（ニューヨーク、アメリカ）、ジャパン・ソサイエティ（ニューヨーク、
アメリカ）
2013 「日本写真の1968」東京都写真美術館（東京）
2009 「異郷へ 写真家たちのセンチメンタルジャーニー」東京都写真美術館（東京）
2007 「昭和 写真の1945-1989」東京都写真美術館（東京）
2006 「Gazing at the Contemporary World: Japanese Photography from the 1970s to the Present」
ジャパンファンデーション（ニューヨーク、アメリカ）
2005 「時代を切り開くまなざし—木村伊兵衛写真賞の30年」川崎市市民ミュージアム（神奈川）
1995 「木村伊兵衛写真賞20周年記念受賞作品～22人の軌跡～」キャノンギャラリー銀座（旧キャノンサロン）（東京）
1992 「戦後写真と東北2」宮城県立美術館（宮城）
1991 「日本の写真1970年代」東京都写真美術館（東京）
1985 「パリ・ニューヨーク・東京」つくば写真美術館（茨城）
1977 「イタリア写真家と11人の日本写真家」イタリア文化会館（東京）
1976 「Neue Fotografie aus Japan」Stadtmuseum Graz mit Museumsapotheke（グラーツ、オーストリア）
1974 「15人の写真家」東京国立近代美術館（東京）



<主な受賞>

- 2017 Paris Photo 2017 Guest of Honour for Paris Photo by Karl Lagerfeld, J.P Morgan Curator's Highlights
2013 日本写真協会賞作家賞
1976 シリーズ「村へ」で木村伊兵衛写真賞
1972 日本写真協会新人賞

<主なパブリック・コレクション>

- 船橋市役所 (千葉)
東京都写真美術館 (東京)
宮城県立美術館 (宮城)
東京国立近代美術館 (東京)
シカゴ美術館 (シカゴ、アメリカ)
ヒューストン美術館 (ヒューストン、アメリカ)
Pier 24 Photography (サンフランシスコ、アメリカ)
サンフランシスコ近代美術館 (サンフランシスコ、アメリカ)
JPMorgan Chase Art Collection (アメリカ)